

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内小学校（岡山県）

【取組内容①】 めあて・進捗状況・ふりかえりの共有を目的としたスプレッドシートの活用

4年生 算数科「直方体と立方体」（啓林館）

使用アプリ：スプレッドシート

【活動内容】

本校では、現在、できるところから個別最適な学びと協働的な学びの一体化を進めていくことを教員全体で共通理解しています。それを進める上で、先日、リーディングDXスクール事業で授業を公開してくださった春日井市立藤山台小学校で行っていたスプレッドシートを活用した実践を先生方に紹介しました。その実践を本校の実態に合わせて少しアレンジし、できる場面で取り組んでいます。

4年生の算数科を例に説明します。「直方体と立方体」の単元の中で、展開図をかく学習があります。今回は、立方体の展開図のことを具体的に説明します。まず、**前時のふりかえりをもとに**、本時では立方体の展開図をかく活動を確認しました。その後、立方体の展開図は11種類あることを伝えました。その中で、子どもたちから「11種類、全部本当に立方体になるのかな？」という問いが出ました。「実際にそれをかいて、作って確認してみよう」というところで、本時の流れを子どもたちと確認しました。



そして、本時の自分のめあてをそれぞれに考えさせ、スプレッドシートに入力させました。入力した子から、展開図をかきはじめます。**一人でする子、ペアでする子、グループでする子、また、別室での少人数学習で先生と一っしょにしたい子とで分かれて活動がスタート**しました。黙々と進めていく子、友達と話し合いながら進めていく子、教科書の二次元コードを読み取って、動画でイメージをしながら進めていく子と、様々な学びの形がありました。

